

政治・経済 (Politics and Economics)	3年・通年・2単位・必修 5学科共通 担当 竹原 信也	
〔準学士課程（本科1-5年） 学習教育目標〕 (1)		
〔講義の目的〕 私たちが現在生活している社会について、その仕組み、ルールを学ぶ。単なる暗記科目としてではなく、「生きた」学問として政治・経済を捉える。選挙権年齢が18才以上に引き下げられたことを踏まえて有権者として身に付けるべき知識・考え方を習得する。また、今年度はCOC+における地域理解教育の一環として奈良県の産業や企業を調べ、地域へ理解を深めるとともに地域課題の解決について考えていく。		
〔講義の概要〕 教科書・ノートを用いた講義を中心にすすめる。適宜、視聴覚教材の利用やグループ活動を行う。前半は主として経済のしくみや、地域経済について、後半は、国際社会や民主主義と選挙の仕組みについて学ぶ。		
〔履修上の留意点〕 授業をよく聞くこと。授業とは関係のない私語や携帯の利用は慎むこと。 授業の前後に教科書を一読しておくことを奨励する。 授業の内容に関連するトピックについて各自色々と考えること 有権者としての権利・責任を自覚して受講すること。		
〔到達目標〕 〈前期中間試験〉 「資本主義経済」について基礎的事柄を理解している。 「国民所得と経済成長」「金融・財政」について基礎的事柄を理解している。 〈前期末試験〉 地域の産業と経済について基礎的事柄を理解している。 奈良県の産業と経済についてその現状と課題を認識している。 〈後期中間試験〉 「国際社会」について基礎的事柄を理解している。 〈学年末試験〉 「民主政治と選挙制度」について基礎的事柄を理解している。 「日本国憲法」について基礎的事柄を理解している。		
〔評価方法〕 60%・・・定期試験（前期中間・後期中間・後期末に実施する。） 15%・・・小テスト、課題レポート、講義ノート提出を総合的に評価する。 25%・・・グループ学習（前期末の成績は定期試験の代わりにグループ演習の発表や取り組みを総合的に評価する。）		
〔教科書〕 『高等学校 政治・経済』改訂版、第一学習社 〔補助教材・参考書〕		
〔関連科目〕 社会科科目全般に関連する。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第1週	ガイダンス	授業の目的・概要・評価方法を説明する	
第2週	現代経済のしくみ	経済と資本主義経済の発達 経済主体と経済活動 市場経済の機能と課題 経済成長と景気変動 財政の仕組み 金融と物価の仕組み	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週	前期中間試験		
第9週	地域の産業と経済	地域産業と経済 奈良の産業・経済の現状と課題 奈良県地域の企業調査	
第10週			
第11週			
第12週			
第13週			
第14週	「働く」こと	「働く」ことについて考える。	
第15週			
前期期末試験			
第16週	国際社会のしくみと特徴	国際経済の基礎知識 現代の国際政治の歴史と特徴	
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週	後期中間試験		
第24週	民主主義と選挙	民主政治の原則と歴史 日本の政治制度 選挙のしくみ・ルール 日本国憲法と人権	
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週			
学年末試験・テスト返却・学力補充期間			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)